

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490200104		
法人名	社会福祉法人 一燈園		
事業所名	グループホーム大学通り一燈園 2階嬉し家		
所在地	大分県別府市上人南10組		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	平成25年4月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年2月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自分らしくいきいきと生活するため、今できることの実現で生きがいを感じて頂けるよう支援している。  
 ・地域の中で暮らしているという意識を持ち、自治会の行事に積極的に参加し、馴染みの関係が維持できて広がりを築いていけるよう支援している。  
 ・季節感を大切にし、行事を取り入れている。美しい物を見たり、感動する心の感性を大切にしている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所は地域の一員として、地域住民との交流を通して、利用者と共に社会参加ができている。
2. 管理者と職員が同じ視点で、チームワークが良く、利用者主体の個別支援に取り組んでいる。
3. 家族との連携がとれており、家族の思いを把握し、受け止めている。

#### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員の目の届く位置に掲示している。特に日常生活の中でご利用者が生き生きと生活できるように、出来ることを見つけ支援している。	理念は目に触れやすいところに掲示しており、全職員で共有できている。毎日のケア会議で理念を掘り下げて話し合いを行い、実践に活かしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し季節の行事に参加し合い、交流を深めている。買い物や美容院は地区のお店を利用している。	事業所は地域の一員として自治会に加入し、年間を通して、地域のいきいきサロンや各行事に利用者と共に参加している。また、事業所の行事にも地域の人の参加があり、日常的に交流ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の方より定期的にボランティアで来園して頂き、書き方を週1度指導してもらっている。活動を通じ認知症の特性を理解し、グループホームを身近に思ってもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、地域包括、ご家族の方々より情報を頂き、意見交換を行っている。交通安全の啓発活動を行い地域の新聞やテレビに取り上げられた。	運営推進会議は定期的開催し、外部評価結果や現在取り組んでいる内容についても報告し、出された意見を運営に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議の開催日時を案内している。併せて会議の報告を文章にて提出している。	市の担当課に運営推進会議や行事を案内し、報告を具体的に提出している。グループホーム連絡協議会を通して連携がとれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての研修は法人全体でも取り組んでいる。眠剤及び精神薬の服用については医師と相談しながら軽減や見直しを行っている。	法人内研修及び事業所内研修を実施すると共に、カンファレンスでケアの振り返りを行い、拘束をしないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡協議会が主催する研修に参加したり、法人本部から年間を通じて全職員が研修を受講する機会を与えられている。又各月のケース会議でも話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご利用者様が入所している。その都度制度を学ぶ機会がある。後見人の方からも助言を頂いている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分に時間をかけて説明している。家族の質問にも丁寧に対応している。契約締結後も十分な理解が得られるよう心掛けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回施設内で自治会、地域包括支援センター、利用者ご家族様の代表に参加して頂き運営推進会議を開催している。事業所から報告を行い参加者の方からも意見や要望を頂くようにしている。	年に2回、家族会を開催し、アンケートを実施している。家族会にはほとんどの家族の参加がある。また、食事会やドライブなどを通して、家族との交流を図ると共に、担当者会議にも家族の参加があり、出された意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケース会議を開き全員参加している。各職員の意見や提案を聞き運営に反映できるようにしている。	日頃から職員間のコミュニケーションが良くとれており、毎月1回の会議で職員の意見や提案を出し合っている。出された意見は上司に報告し、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、各職員と話し合う機会を持ち要望を聞いている。各部署毎の目標、個人の目標を設け、実現に向け取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部経営企画室が担当して、新人・フォローアップ・ステップアップ・リーダー研修を計画し、受講している。又、外部の研修にも積極的に参加し、ケース会議で研修報告の機会を持ち全職員に周知を図ることで、レベルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市のグループホーム連絡協議会に入り、定期的に会合、研修に参加している。情報交換や交流会を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートをはじめ、関係書類を作成するときに希望を聞いている。また、以前利用していた事業所から情報を収集し信頼関係を築くようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りが困難な状況もあったが、ご家族様から頻回な聞き取りを行い、話し合いを持ち、またこれまで担当していたケアマネージャからの情報も大切にしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急変時の対応を危惧されている方が多くいらっしゃる。どのタイミングでご家族に連絡するか、ご利用者毎に要望を聞き、一覧表にして常に判断できるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今できることを見つけ喜びに繋げるよう取り組んだ。また、生活上役割を持ち、自分の持てる力を発揮できる場面を設定し、意欲の向上に繋げている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に1回ケアプランについて話し合い、ご家族の要望を大切にしている。又受診時の結果、様子を報告している。半年に1回家族会を開催し活動報告を行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来園されているため、これまでの関係以上に広がりがある。また、古里を訪ねたり友人宅を訪ねたりして、本人の思いを大切にしている。	家族や知人の訪問が多く、事業所内での交流の広がりがある。本人の希望に添って、家族の協力を得ながら、故郷や友人宅の訪問など行っている。電話や年賀状、暑中見舞いなどを通して、関係継続の支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の特徴や個性、思い、出来ることを見極めながら、良い関係が維持できるように工夫している。必要に応じ助言や声かけ見守りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中はご本人が戸惑わないように病院側と連携を取りながら馴染みの物を持参した。また、サービスが終了しても、ご家族と葬儀の写真を選んだり愛用していた物を最後まで準備するお手伝いをさせて頂いている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや気持ちを大切にして、日々の生活の中に取り入れ支援している。ご家族の方からも随時要望を聞いて検討している。	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、フェイスシートに新たに知り得た利用者の情報を記録し、職員間で共有できるように工夫している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションの中だったり知人やご家族様より情報を得て記録している。これまでの生活習慣を大切にして地域の習わしなどを日々の行事の中に取り入れている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートやアセスメントシートを作成し、随時見直ししながら、ご家族様、職員で本人の全体像を把握し共通の理解としている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、本人が求めていることを引き出し、担当職員同士で案を作り計画作成担当者話し月1回のケース会議にて全員で検討しカンファレンスの際家族に同意を頂き作成している。	本人、家族の意向や希望、かかりつけ医の意見をもとに、現状に即した計画を作成している。ケアについては、毎月チェックし、カンファレンス、モニタリングも定期的に職員全員で行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録にて職員は共通認識している。状態の変化により随時見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて通院や買い物、その他の外出支援を行っている。四季折々の風景を楽しんで頂けるように支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と沿道で交通安全の啓発活動と一緒にしてもらっている。生き生きサロン等の行事に参加している。また、地区の盆踊り大学生との交流が定期的に行われている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診をして頂いている。また歯科の往診や行きつけの眼科等、個々の状況に応じて安心して頂けるように医療との連携や支援を行っている。	事業所の協力医による月1回の訪問診療があるが、本人、家族の希望するかかりつけ医で医療が受けられるよう支援している。専門医の受診は基本的には家族が行っている。不可能な場合は、職員が付き添っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスに看護師が常勤しているため健康について医療面からの助言や相談を行い対応してもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も同行。情報提供を行っている。入院中は様子を伺い快復に向けて家族や医師と退院計画の相談をするなどして連携を取っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期指針を作成し全職員で施設の方針を共有出来るよう意識統一を行っている。また家族やご本人に終末期ケアの希望などの確認を行い、状況の変化に合わせて話し合いを持っている。	終末期および看取りの方針を全職員で共有し、利用開始時に家族に説明しており、状況変化に応じて話し合いを行っている。安心して納得した終末を迎えられるよう支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを全職員で回覧している。1階にAEDが設置されている。グループホーム連絡協議会が主催する心肺蘇生法について研修を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練をご利用者と共に行っている。運営推進会議にても状況を報告して協力をお願いをしている。各ご利用者に防災袋を準備しており保管している。	マニュアルを作成し、毎月事業所内で夜間想定も含めた訓練を実施している。運営推進会議で提案し、地域住民の事業所内見学を実施している。また、緊急連絡網を作成し、協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご利用者の生活スタイルを大切にしている。さりげない介助や礼儀などについて職員間で注意し合い心身の安定への働きかけを行っている。	接遇委員を決め、全職員が毎月「マナー会議」において自己評価をすることで、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にしたいケアの実践に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の気持ちを反映出来るようにその方にあった声かけを行い、意欲や充足感を持って頂けるように心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを第一に大切にしている。料理の手伝い、小物づくり、野菜作りなど趣味を生かした活動を支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みのヘアスタイルを実現できるように支援している。訪問美容院2店、外部、家族による実施がある。ボランティアでエステを行い、ご利用者の方々に喜んで頂いた。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割を持って頂き、ご利用者と一緒に準備後片づけをしている。食事中は各テーブルに職員が同席し、楽しく食事が出るよう声かけしている。	食事は、法人の厨房で作っているが、主食や汁物は事業所で作り、準備、盛りつけ、片付けなどは利用者と共に行っている。誕生会や行事食など、月に数回は事業所内で作ったり、外食に出掛けたりしている。職員も一緒にテーブルを囲み、食事が楽しくなるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎に食事量や水分量を確認している。摂取量が少ない人には高カロリー食品等を提供。個々にあった食物や好きな飲み物を摂取して頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きや義歯洗浄の声かけを行っている。口腔内の清潔保持が出来るように週2回のポリデント消毒を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しておりその方にあった排泄誘導を行っている。排泄パターンについては随時ご本人やご家族様の要望を聞きながら全職員で話し合い自立に向けての見直しを行っている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりの行動などから察知し、リハビリパンツや尿取りパッドなどを使用することで、トイレでの排泄を基本にさりげない誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し排便がスムーズに行える様支援している。排便困難者については医師と相談しながら対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やペースを大切にしながら入浴を楽しんでもらっている。柚湯、菖蒲湯、バラ湯を提供し季節の変化を感じてもらっている。	温泉であるため、入りたい時間にいつでも入浴できる。個々に応じた支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて就寝したり休息を取っている。夕食後は団らんとし趣味やテレビ、読書等を楽しくゆっくり過ごして安眠に繋がる様支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬や定時薬の処方に変更になった際は連絡ノートに記載し様子観察、状態変化の確認を行っている。服薬前に職員間で4回の確認を行い誤認の防止に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、工作、調理、園芸、家事手伝い等個々の特徴にあった役割を見つけている。達成感や満足感が得られるようにねぎらいの言葉や感謝の気持ちを伝え得るようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望により外出や外食する機会を設けている。散歩中には買い物をしたり馴染みとなった近隣のお宅を訪問し、会話を楽しんだり四季折々の花や植物観賞を楽しみ気分転換が図れるように支援している。	利用者の希望や体調に応じて、買物や近隣のお宅訪問、散歩など、日常的に出掛けている。また、外食や遠出の時は、家族や地域の人の協力を得ている。	



事業者名: グループホーム大学通り一燈園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお小遣いを個人で管理し、買い物に行った時に、好みの物を購入できる様支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置しており、いつでも家族や知人とゆっくり話せる様支援している。また定期的に葉書を出しており馴染みの関係が維持できている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者はリビングに集まるのが好きな方が多く、個々に好きなことをして過ぎている。また調理をする際の香りや音など生活感を感じることが出来る。季節にあった壁画や縫い物づくりを支援し楽しく行っている。	リビングにはいつも利用者が集まってきて、それぞれがゆったりとくつろいでいる。適度なざわめきと会話がある。家具や飾りも、季節感や家庭的な雰囲気、居心地の良さに配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファやテーブルを設置し、一人または数名で楽しめる空間を作っている。そこでそれぞれのペースで自由に過ごしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた家具や家族の写真を用意し、個性に合わせた居室づくりを行っている。ご家族の要望も取り入れて対応している。	家族や本人と話し合い、居室には、馴染みの家具や使い慣れたもの、写真などを配置し、それぞれ個性的で居心地良く過ごせるような配慮がされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口には表札を掛け、自分で作った作品を掲示止、自分の部屋だと分かるようにしている。ご利用者の混乱が生じた時は話し合っ解決できるよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490200104		
法人名	社会福祉法人 一燈園		
事業所名	グループホーム大学通り一燈園 3階楽し家		
所在地	大分県別府市上人南10組		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	平成25年4月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても地域住民の一員として地域貢献できたり、社会参加が出来るように地域の行事に積極的に参加している。利用者が手作りした手芸品などを展示した文芸展を毎年開催して、地域の方々に見に来ていただくなどの交流を続けている。また、交通安全の啓発活動を利用者、職員、地域の方々が一緒になって行い、すばらしい活動として地元で新聞やテレビに取り上げられた。利用者はそれぞれ持ち続けている「できる力」を十分発揮して園芸クラブや家庭クラブ、お出かけクラブ等個々の場面で活かしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(2階嬉し家と同様)

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念はスタッフルームや食堂などの目に触れやすい場所に掲示し、毎月のケース会議において唱和することによって各自の意識の向上に努めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域の一員として自治会に入っており年間を通じて地域の行事に参加したり、地域の方々がホームに来所されたりと交流がある。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のいきいきサロンに利用者と職員が参加したり、「文芸展」などの施設内の行事に地域の方々を呼び込むことで認知症の方への理解やグループホームへの理解を拡大する活動を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で会議を開催し事業所の活動報告を行い、参加メンバーからの質問や意見交換をサービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録や行事の報告など行っている。また別府市グループホーム連絡協議会等を通じて市への連携を取りサービス向上に取り組んでいる。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について内部研修やカンファレンスを通じて振り返っている。身体拘束は行わないと言うことを全職員が確認し実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や組織全体の研修を通じて高齢者虐待防止に関する理解を深め虐待防止に取り組んでいる。		

事業者名: グループホーム大学通り一燈園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分説明し理解納得して頂けるよう努めている。ご家族の疑問等にも丁寧に対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に1回家族会を開催し、意見や要望等を頂き、それを施設運営に反映させている。また個別の担当者会議でもご家族に参加して頂き要望を聞いている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケース会議を職員全員参加で行い、利用者のことだけではなく運営に関する意見や提案も各職員から聞き、上司に報告して施設運営に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課表やDo - Capシートを活用し職員の努力や勤務状況の把握を行っている。また一人ひとりと面接を行い職員がやりがいや向上心を持って働けるよう支援している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の経営企画室が担当して職員一人ひとりの勤務年数に見合った各種研修が行われており全員が受講している。外部研修にも積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市内のグループホーム連絡協議会に加入しており協議会主催の研修会や交流会に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人の心身の状況や思いを把握し、不安な事や疑問に思うことの解消に努め、安心して受け入れられるような関係作りを心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に、ご家族が困っていることや要望等を十分に話し合いサービス内容の方向性を共に確認することで関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者やご家族様の状況や要望をもとに必要な支援を見極め様々なサービスの情報提供に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴を把握し、生活のリズムを大切にしながらご本人の出来ることはして頂くなど、共に助け合いながら支え合う関係作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンスの際には日頃の状況とを細かく伝え、コミュニケーションをしっかりとるようにしている。また状態に変化のあった際にはお互いに相談し、今後の対応等を決めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけではなく友人や知人等の訪問時にゆっくり話が出来るように配慮している。また、年賀状や暑中見舞い等の葉書を出す支援行い、関係が途切れないような支援に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者みんなで楽しめる時間や気の合う同士で過ごせる時間の提供を心がけ利用者同士がスムーズにコミュニケーションを取れるよう間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用者が終了してもその後の本人の様子を気に掛け、入院中のお見舞い等職員各自が訪れたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者一人ひとりの思いや意向を聞き、ご家族とも話し合いながら把握に努めている。新しく得た情報は記録に残し職員全体で共有しケアに活用している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族、知人の話を聞くだけでなく普段の利用者との会話等からも好きなことや趣味を知り全職員で情報を共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりへの心身の状態や生活リズムを理解する為に日頃から観察やコミュニケーションをしっかりとっている。またバラバラな対応にならないように全職員での連携にも努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者家族の意向や希望、かかりつけ医の意見等をもとに職員間で意見を出し合っ、現状に即した介護計画になっているかモニタリング、カンファレンスを行い作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃より利用者の観察をしっかりと行い、普段と違うことがあれば、その場にいなかった人が見ても理解できるよう時系列に沿ってわかりやすく簡潔な記録を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況、要望に応じて通院の代行や病院の選別、外出時の送迎等を行い、柔軟な支援を臨機応変に展開することで負担の軽減を図っている。		

事業者名: グループホーム大学通り一燈園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の自治会に入り、行事に参加したり近所の商店や理美容院を利用するなどして地域交流を図っている。また毎月、習字やおやつ作り等の地域ボランティアの訪問がある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他本人やご家族が希望するかかりつけ医での医療を受けられるよう支援している。受診の際も家族と連携を取り付き添いを職員が代行するなどの支援も行っている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違うことや急な体調変化の際はデイサービスのナースと連携し対応している。また協力医のナースには毎月の往診の際に日頃の状況を詳しく伝える様に心がけている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には普段の生活状況等の情報を医療機関に提供し、利用者の混乱を最小限に抑える配慮を行っている。また1ヶ月を超える入院となると施設を退去となる場合がある為主治医に治療状況を確認しながら退院計画の相談を行うなどの連携を取っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始時に重度化、終末期についての話し合いを関係者全員で持ち、文書化し家族にも説明している。状態変化の時は変化に合わせた対応が出来るよう都度話し合いを行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成し全職員が内容を把握している。内部研修等も行い緊急時や事故発生時の対応についても実践できるよう学習している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成しており、毎月1回施設内での防災訓練を行っている。年2回は消防署立ち会いでの防災訓練も行っている。地域住民に災害時の応援をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月1回マナー会議を行い全職員で話し合い気をつけている。また毎月自己評価をすることにより、自らを振り返る事で意識の向上を図り、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にケアの実践に努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者の発言だけでなく態度や行動等にも配慮しながら、可能な限り自己決定の実現への支援を行っている。行事やレクの際には本人の希望で参加、不参加を決めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが利用者のその日の体調や気分にあわせて、その人のペースで生活できるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には利用者と一緒に洋服を選び、季節にあった好みのおしゃれに心掛けています。理美容は近所の店へ出かけたり訪問美容で定期的に整えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを利用者と一緒に行っている。また、誕生会や季節の行事では、ピッキング形式にしたり、お弁当にしたり、時には外食をするなどの工夫をして楽しく食べてもらえるよう配慮している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行い、食事量がどうしても少ない方には医師に相談しながら栄養補助食品の提供を行っている。水分に関しても各人の体調や病気に配慮しながら好みの飲み物を勧めることで摂取を促している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者によって出来ること出来ないことが違うので、状態に合わせた声かけ見守り介助を行っている。また定期的に洗浄剤による義歯の洗浄を行い口腔の清潔に努めている。		



事業者名: グループホーム大学通り一燈園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間事や利用者の行動により排泄サインを察知しトイレ誘導を行っている。失敗をした時には利用者の自尊心を傷つけないような声かけ対応に配慮している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳や朝食にヨーグルトをつける等日々の食事に工夫をしている。散歩や廊下歩行等を個々に行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者本人や家族の希望で毎日でも入れるようしている。また入浴時間もそれぞれの希望に合わせた時間に入ってもらっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクや行事を充実させ、活動的な生活を支援することで夜間の安眠につながるよう努めている。また、日中もその日の体調や気分に合わせて休息を取ってもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬一覧表を作成し、誰が何の薬を飲んでいるのか全職員把握している。また変化する体調に合わせ主治医と連携を取りながら薬の調整を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や昔の趣味、家事手伝い等の役割づくり、園芸や生け花、縫い物等のクラブ活動、ドライブや外食、カラオケ等の楽しみ毎の支援個別に行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より近隣への散歩や買い物には利用者と一緒に出かけている。また、家族と一緒にドライブに出かけたり、個人の希望でデパートや水族館等行きたい場所に出かけられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に外食や買い物に行った際は職員が代金を払ってしまうのではなく、利用者にお金を渡して支払いするのを見守る等の支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者のご家族や友人に手紙が書ける様支援している。年賀状や暑中見舞い、寒中見舞い等の葉書も出している。電話を掛けたい利用者には職員が間に入って相手とスムーズに話が出来るよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計や湿度計で常に利用者に最適な温度や湿度になるよう冷暖房や加湿器の調整をこまめに行い、換気にも気をつけている。共用空間には利用者の作品を展示したり、毎月毎に季節感のある壁画を飾っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを置いて仲のいい利用者同士で集まったり、ゆっくりくつろいでいただく環境を作っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の希望ご家族様の意向で自宅より使い慣れた物を持ってきてもらい居心地よく過ごしてもらうよう工夫している。居室には椅子、テーブルなどもあり、面会時に居室でゆっくり談笑してもらっている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの出来ること、分かることを把握し家具の配置等を行い事故の無い安全な生活が送れるように配慮している。		